

総合的な学習の時間学習指導案

学年	第5学年1組
単元名	見つけよう！関わろう！ふるさと音戸の産業 ～オイスター・マイスター～

1 単元について

このような単元です

- ・生活科「はたみの町探検」3年生総合的な学習の時間「大好き音戸のまち！」の中で音戸の海を学習対象とし波多見の海の生き物と親しんできた児童が、1年間を通して、水産業という視点から「ふるさと音戸・波多見」の海について探究的に学びを広げ深めていく大単元である。
- ・小単元②～オイスター・マイスター～では、生産高日本一の呉市の牡蠣について、「牡蠣の生産」と「生きものとしての牡蠣」に関わる課題解決に向けて、体験的・探究的に学んで情報収集し、整理・分析し、発信することを通して、地域への愛着を深め、地域の一員としての自覚を高めることをねらいとしている。

このような児童です

- ・音戸地域（波多見）の海で生産される有名な水産物が牡蠣やチリメンであることはよく知っており、牡蠣いかだや漁労船はよく目にしている。また、魚釣りを楽しんだり、海岸で遊んだりする体験も豊富である。しかし、大単元の始まりにおいて「音戸地域（波多見）の海で生産される物について知ること、もっと知りたいこと」を出し合ったときには、チリメンや牡蠣の生産に伴う作業についてはほとんどの児童がよく知らなかった。
- ・様々なことに興味・関心を持ち、体験的な学習には意欲的な児童が多い。しかし、自ら課題を設定して追究したり、情報を整理してまとめたり表現したりする力は不十分である。特に、情報を整理して論理的に書くことや事実を根拠に自分の意見を話したり書いたりすることができる児童は数名である。

だからこのような授業をしています

- ・年度初めに1年間を見通した大単元の課題設定を行い、学年末に学習全体を振り返って「まとめの研究発表会」を行うという見通しを持たせる。課題設定を受けて、5つの小単元を設定し、各単元で「小単元の課題設定」「情報の収集」「整理・分析」「表現・まとめ」「新たな課題の設定」という課題発見・解決学習を取り入れ、それを発展的に繰り返して学びを深めていく。
- ・1年間の学習を通して、地域への愛着を深め地域の一員としての自覚を高めることができるよう、「音戸・波多見だからこそ」という地域の特徴やよさに気付くことができる学習展開にする。
- ・小単元②～オイスター・マイスター～では、生産高日本一の呉市の牡蠣について、「牡蠣の生産」と「生きものとしての牡蠣」の2つに関わる課題解決に向けて、呉市水産振興課の方、海洋技術センターの方、牡蠣の生産者、中学校理科教師から話を聞いたり体験したりして情報収集させるとともに、広島県や呉市の水産業に関するパンフレットからの情報収集もさせる。続いて「音戸の牡蠣」について音戸小学校の5年生に伝えるという目的を持って情報を整理・分析させる。これまでに情報の整理・分析の方法として、「イメージマップ」「マトリックス」を体験し、「リーフレット」にまとめて伝える活動を行った。本小単元では、「熊手チャート」「グルーピング」「ラベリング」などを使って情報整理を行い、国語科「資料を生かして考えよう」の学習を生かして資料を効果的に使って「牡蠣手帳」にまとめ、音戸小学校5年生との学習交流会で「牡蠣手帳」を使って「波多見の牡蠣」を伝える。本単元で体験した情報分析の方法や表現の手段を今後の学習で進んで使えるようにさせたい。

2 単元目標（学習対象・学習事項）

①大単元 「見つけよう！関わろう！ふるさと音戸の産業」

○音戸地域（波多見）の水産業に携わる人や組織やその仕事と関わりを深め、探究することを通して、主体的・協働的に課題を解決する能力を高めるとともに、学び方や考え方を身に付けて、地域（波多見）の自然や地域の特色を生かした水産業に携わる人々の知恵や工夫や努力について学び、音戸地域（波多見）の一員としての自覚を高める。

②小単元 「オイスター・マイスター」

○「牡蠣の生産」「生きものとしての牡蠣」について探究的に調べ、情報を整理・分析して「牡蠣手帳」にまとめ、音戸小学校5年生に伝える。

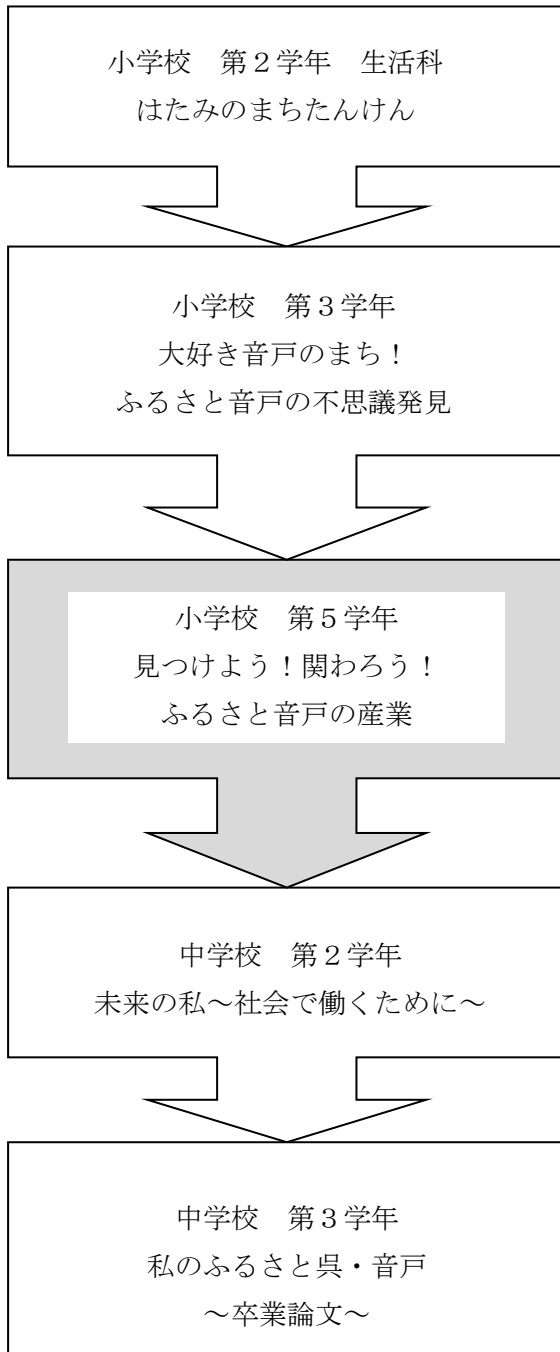
本小単元で育てようとする資質・能力（音戸中学校区重点）

資質・能力	学びの宝石	ルーブリック
課題を設定する力	？見つけ力	A「牡蠣」についての調べたい課題を自ら複数設定することができる。 B「牡蠣」についての調べたい課題を自ら設定することができる。 C「牡蠣」についての調べたい課題を自ら設定することができない。
情報を収集する力	探す力	A自分の課題を追究するための情報を集めたり、調べたりすることができる。 B自分の課題を追究するための情報を集めることができる。 C自分の課題を追究するための情報を集めることができない。
思考表現する力	考える力 伝える力	A目的を持って情報を整理・分析して「牡蠣手帳」を作り、進んで人に話すことができる。 B目的を持って情報を整理・分析して「牡蠣手帳」を作り、人に話すことができる。 C情報の整理・分析ができず、「音戸の牡蠣」を人に話すことができない。
協働的に関わる力	ともに学ぶ力	A各自が収集した情報を交流し合って整理・分析して考えを深め、目的に応じてまとめることができる。 B各自が収集した情報を交流し合って整理・分析し、目的に応じてまとめることができる。 C各自が収集した情報を交流し合って整理・分析することができない。
自己を理解し 生き方を考える力	生かす力	A「音戸の牡蠣」について学びまとめたことや、情報収集・整理・分析の方法を今後の学習に生かすことができる。 B「音戸の牡蠣」について学びまとめたことや、情報収集・整理・分析の方法を今後の学習に生かそうとしている。 C「音戸の牡蠣」についての学びや、情報収集、整理・分析の方法が身に付いたと自覚できない。
地域の一員として 関わる力	地域の一員	A「音戸・波多見だからこそ」の特徴や良さに気付いて、多くの人に知ってもらおうとし、自らも地域の一員として活動している。 B「音戸・波多見だからこそ」の特徴や良さに気づき、広めようとし、地域の一員として活動しようとしている。 C「音戸の牡蠣」について、「音戸・波多見だからこそ」という地域の特徴や良さに気付くことができない。

3 単元の評価規準

課題を設定する力	情報を収集する力	思考表現する力	協働的に関わる力	自己を理解し、 生き方を考える力
<p>(1) 「牡蠣の生産」「生きものとしての牡蠣」について自分が調べたい課題を設定することができる。</p>	<p>(2) 自分の設定した課題に応じて、必要な情報を収集することができる。</p>	<p>(3) 人に伝えるために「牡蠣手帳」を作るという目的を持って情報を整理・分析し、「牡蠣手帳」を使って人に話すことができる。</p>	<p>(4) 各自が収集した情報を交流し合い、伝えたいことを分かりやすく相手に伝えるという目的に応じてよりよく整理・分析することができる。</p>	<p>(5) 「音戸の牡蠣」について学びまとめたことや、情報収集、整理・分析の方法を今後の学習に生かそうとしている。</p> <p>(6) 「音戸の牡蠣」について「音戸・波多見だからこそ」という地域の特徴や良さに気付き、広めようとし、地域の一員として活動しようとしている。</p>

4 学習内容の系統性



【課題発見】（?見つけ力）

- ・「ふるさと音戸の産業NO. 1」って何だろう？
- ・チリメンと牡蠣について知っていることを出し合おう。

①5年1組チリメンジャー

【情報の収集】（探す力）（ともに学ぶ力）

- ・チリメンについて調べよう。
- ・「お魚教室」「チリメンクッキング」

【整理・分析】（考える力 伝える力）

- ・音戸紹介リーフレットを作ろう。

【実行】（生かす力）

- ・北広島で音戸のことやチリメンのことを伝え、チリメンクッキングをしよう。

②オイスター・マイスター

【情報の収集】（探す力）（ともに学ぶ力）

- ・牡蠣の生産について調べよう。
- ・生きものとしての牡蠣を調べよう。
- ・「水産教室」「海洋技術センター見学」「牡蠣工場見学」

【整理・分析】（考える力 伝える力）【実行】（生かす力）

- ・牡蠣手帳にまとめて伝えよう。

③ぼくらの波多見・牡蠣の育つ海

【整理・分析】（考える力 伝える力）

- ・牡蠣になって音戸の海を見てみよう。
- ・森と海のつながりを考えよう。

【実行】（生かす力）

- ・波多見の牡蠣を巡るストーリーを学習発表会で表現しよう。

④ふるさとクッキング

【課題発見】（?見つけ力）

- ・チリメン牡蠣のふるさとクッキングの学習課題を立てる。

【情報の収集】（探す力）（ともに学ぶ力）

- ・ふるさとクッキング教室

【整理・分析】（考える力 伝える力）【実行】（生かす力）

- ・レシピにまとめてALTに伝えよう。

⑤チリメンと牡蠣の旅立ち

【課題発見】（?見つけ力）

- ・音戸で生産されたチリメンや牡蠣はどこへ行くのか？

【情報の収集】（探す力）（ともに学ぶ力）

【整理・分析】（考える力 伝える力）

- ・商品としてのチリメンや牡蠣について調べよう。
- ・チリメンや牡蠣の未来を考えよう。

【まとめ・表現】

（生かす力）（考える力 伝える力）（地域の一員）

5 指導計画（全18時間）

学習活動	★指導上の留意点 ※関連する教科	評価規準 (評価方法)
学年はじめ，大単元の学習課題設定において，牡蠣についてもっと知りたいことを出し合っている。		
課題の設定（1） ○4月に出し合った「牡蠣についてもっと知りたいこと」を整理し，本小単元で解決したい課題と発信方法を決定する。	★牡蠣料理と商品としての牡蠣についての課題解決は，小単元④⑤で行うという見通しを持たせる。	課題を設定する力(1) 自分が調べたい課題を設定することができる。 (ワークシート記述)
「牡蠣の生産」と「生きものとしての牡蠣」を調べ，伝えたいことを整理し，「牡蠣手帳」にまとめて，音戸小学校5年生に話す。		
情報の収集（10） ○「水産教室」「海洋技術センター見学」「牡蠣作業場見学」 ・見学・体験・話を聞いて学んだことを記録する。 ○「パンフレット」 ・パンフレットの資料を読んで必要な情報を記録する。 ○「牡蠣の体の観察」「牡蠣の食べ物プランクトンの観察」 ・観察や実験を通して，生きものとしての牡蠣の姿を明らかにしていく。 ○ノートに記録したことから「牡蠣手帳」に載せたい情報をカードに書き出し，使いたい資料に付箋を付けておく。	★専門家を招いての体験学習や専門機関や牡蠣生産現場の見学を行うとともに，音戸中学校理科教師の協力で牡蠣の体やプランクトンの観察実験を行い，実感を伴った情報収集の場を設定する。 ※社会科 「水産業の盛んな地域」 ※理科 「水中の小さな生きもの」	情報を収集する力(2) 自分の設定した課題に応じて，見る・聞く・調べる等で，必要な情報を収集している。 (行動観察・ノート記述) 協働的に関わる力(4) 情報を伝え合い協働して課題を解決している。 (行動観察・ノート記述) 思考表現する力(3) 情報を整理・分析し，「牡蠣手帳」を作っている。 (ノート記述・作品)
情報の整理・分析（3） ○音戸小学校5年生に伝えたい「音戸の牡蠣のこと」を決めて，情報を整理・分析する。 [本時 14/18]	★「熊手チャート」「グルーピング」「ラベリング」の情報整理・分析の方法を教え使えるようにする。	思考表現する力(3) 「牡蠣手帳」を使って，自分が伝えたい牡蠣のことを話している。(行動観察)
創造・表現（2） ○「牡蠣手帳」を作る。	★国語科「資料を生かして考えよう」の学習を生かし，効果的な資料の使い方をさせる。	自己を理解し生き方を考える力(5) 「音戸の牡蠣」について学びまとめたことや，情報収集・整理・分析の方法を今後の学習に生かそうとしている。
実行・ふり返り（2） ○音戸小学校との「学習交流会」で「音戸の牡蠣」について，牡蠣手帳を使って伝える。 ○単元の学習をふり返る。	※国語科 「資料を生かして考えよう」	自己を理解し生き方を考える力(6) ふるさと音戸・波多見の特徴や良さに気付いている。 (行動観察・ふり返りカード) 自己を理解し生き方を考える力(6) ふるさと音戸・波多見の特徴や良さに気付いている。 (ノート記述)

6 本時の展開 (14/18時間)

(1) 目標

- 「牡蠣について学んだことを音戸小学校の5年生やまわりの人に伝える」という目的に応じて情報を整理・分析し、「牡蠣手帳」の構成メモを作る。 【思考表現する力(3)】

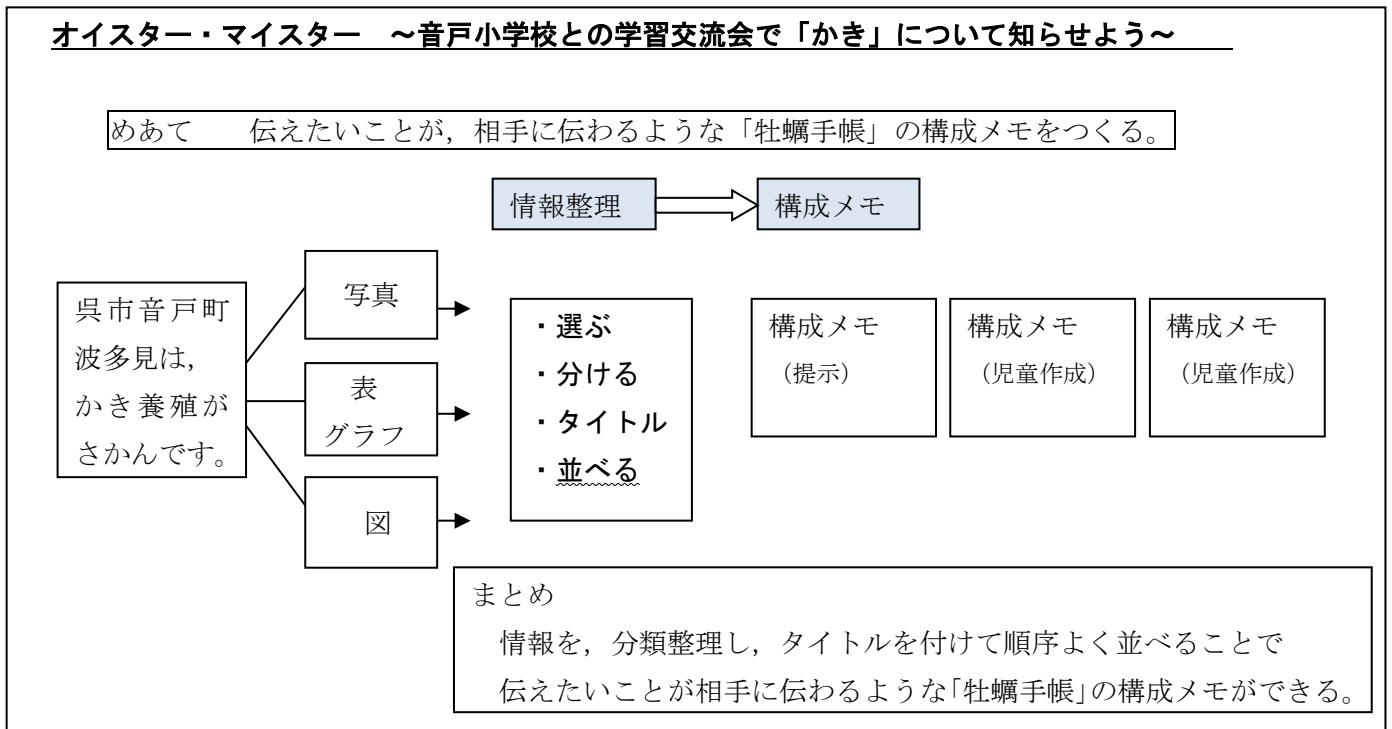
(2) 展開

学習活動	予想される児童の反応	指導上の留意点 (○) 特に配慮を要する児童への支援 (●)	評価規準 (評価方法)
1 本時の課題を確認する。	伝えたいことが、相手に伝わるように「牡蠣手帳」の構成メモをつくる。		
2 情報整理の手順をつかむ。(一斉)		<ul style="list-style-type: none"> ○初めての活動なので、指導者が具体的にやってみせる。 ○1番伝えたいことは何かを考えて、順序を決めることが大切であることを確認する。 	
3 情報カードを整理・分析し構成メモを作る。(グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ○「～だから同じ仲間ですね。」 「～はどうでしょう。」 「自分も同じで～です。」 「自分は～です。～だからです。」など、賛成・反対・質問・付け加え・確認などをしながら情報を整理・分析していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●情報収集の場面(見学・観察など)を想起させ、初めて知って驚いたことなどを話させる。(10班の児童) ○意見が分かれたら、「伝えたいこと」の中心に立ち戻って検討させる。 	目的に応じて、情報を整理・分析し「牡蠣手帳」の構成メモを作っている。 (構成メモ) (ふり返しカード)
4 できあがった構成メモを見合う。(一斉)	<ul style="list-style-type: none"> ○仲間分けのタイトル・順序・キヤッチコピーを示し、並べ方の理由を話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○順序の理由とキヤッチコピーを関連付けてとらえさせることで、順序の大切さに気付かせる。 	
5 まとめ	情報を、分類整理し、タイトルを付けて順序よく並べることで伝えたいことが相手に伝わるような「牡蠣手帳」の構成メモができる。		
6 「学びの宝石」に記入し、今日の学習を振り返る。			

- ①情報を選ぶ。
 - ②仲間分けをする。
 - ③タイトルを付ける
 - ④順番に並べる

早く終わったら、使用する資料を選び、構成メモに書き加える。

(3) 板書計画



(4) 学びの宝石 (ふり返し表)

？見つけ力	調べたいこと・伝えたいことを決めることができた。	/	/	/	/
探す力	牡蠣についての情報を集めた。	9/14 水産教室	9/20 海洋技術S	9・10 月 調べ学習	10/30 かきむすめ
		10/10 プランクトン	10/31 牡蠣の解剖	/	/
考える力	目的に合わせて情報を整理し、「牡蠣手帳」を作った。	/	/	/	/
伝える力	伝えたいことが伝わるように、資料を活用して話した。	/	/	/	/
ともに学ぶ力	友達と交流しながら、よりよい「牡蠣手帳」にしていくことができた。	/	/	/	/
生かす力	調べ方や情報整理の仕方を他の学習でも使おうと思う。	/	/	/	/
波多見の一員	音戸・波多見のよさに気付いて、友達と話すことができた。	/	/	/	/

※本単元学習前後の児童の変容について

音戸中学校区で育成を目指す資質・能力は以下の通りであり、児童には「学びの宝石」として示している。

育成を目指す資質・能力	学びの宝石
課題を設定する力	? 見つけ力
情報を収集する力	探す力
思考表現する力	考える力・伝える力
協働的に関わる力	ともに学ぶ力
自己を理解し、生き方を考える力	生かす力
地域の一員として関わる力	波多見の一員

・単元前の児童の実態

音戸地域（波多見）の海で生産される有名な水産物についてよく知っており、魚釣りをしたり海岸で遊んだりする体験も豊富である。しかし、チリメンや牡蠣の生産に伴う作業について、ほとんどの児童がよく知らなかった。

様々なことに興味・関心を持ち、体験的な学習には意欲的な児童が多いが、自ら課題を立てて追究したり、情報を整理してまとめたり表現したりすることに課題があった。特に、情報を整理して論理的に書くことや事実を根拠に自分の意見を話したり書いたりすることができる児童は数名であった。

・手立て

そこで、1年間を見通した大単元の課題設定を行った上で、5つの小単元それぞれで「小単元の課題設定」「情報の収集」「整理・分析」「表現・まとめ」「新たな課題の設定」という課題発見・解決学習を取り入れ、「音戸・波多見だからこそ」の特徴やよさに気付くことができる学習展開とした。

小単元ごとにまとめの表現活動を入れ、相手意識と目的意識を持って情報を整理・分析する。情報の整理・分析の方法として「イメージマップ」「マトリックス」等を、表現手段として「リーフレット」「手帳」等を体験させていく。

・児童の変容

音戸地域（波多見）の海で生産される牡蠣について、一人一人が自分の言葉で語るできるようになり、6年生3学期の総合的な学習の時間「夢に向かって～波多見の未来～」において、「プランクトンが育つ豊かな海、牡蠣が育つ美しい海を残したい。」「海浜清掃にこれからも参加していく。」という内容の記述が多く見られ、「自己の生き方を考える力」「地域の一員として関わる力」を高めることができた。

6年生の総合的な学習の時間「わが島ヒストリー」では、調べたい地域の歴史を自分たちで設定し、地域に出てインタビューしたり、地域で活動している方を訪問したり、図書館で司書の方に相談したりする活動を児童だけで行うことができた。さらに、「紙芝居」「新聞」「映像によるプレゼン」「劇」などを選択して5年生に向けて発信し、「課題を設定する力」「情報を収集する力」「思考表現する力」を高めることができた。